

蛇石さん（氷上町）

昔、丹波の北田井に、雨ごいをかなえてくれる蛇石さんがまつってありました。

ある年の夏のこと、丹波地方は、ひどい、ひでりで、困りました。高い山の上で、火をもやして、雨雲をまつところもありました。里の氏神〈うじがみ〉さまに、雨ごいする里もありました。

この北田井の里だけは、水が、こんこんとわきでて、田のいねは、あおあおとしていました。

「おい、山向うの山西へ行って、蛇石さんをおかりして、雨ごいしようじゃないか。」と、山東の里人たちは、夜にまぎれて、山をこえ、北田井の蛇石さんを、うまく、かつぎだしました。

山西と山東のさかいの天王坂まできて、北田井の人が、おっかけてこないのがわかると、みんなはつかれがでてきて、べったりすりこんでしまいました。

その時でした。北田井の安全山のあたりに、稲光りがしたかとみるまに、ザーッと、大雨が、ふってきました。

「ワアー、蛇石さんのおいかりだ。」と山東の人たちは、蛇石さんをほりだしたまま帰ってしまいました。

こんなことが、その後もたびたびありましたので、今では、この蛇石さんを石の器にいれ、ふたをし、まわりは、玉垣でかこって、だれも、かつぎだせないようにしています。

